

2022年 祖谷温泉と定福寺観光

右城 猛

1. まえがき

5月28日と29日、高野広茂・いくよご夫妻に誘っていただき、祖谷温泉「ホテル秘境の湯」に宿泊して、かずら橋、木村家住宅、定福寺を観光した。

西祖谷は14年振りである。平成20年(2008年)6月28日、高知県橋梁会で徳島県鴨島町の牛島高架橋の工事現場を見学した後、西祖谷に立ち寄って「かずら橋」を見学し、温泉「ホテル秘境の湯」に浸かって疲れを癒やした。

今回の旅行のメンバーは、高知丸高会長の高野広茂・いくよご夫妻、宮地商事会長の宮地勝美・満理子ご夫妻、いくよさんの姉の山崎チ鶴さん、その娘の仙頭佳枝さん、前田造園の前田修身さん、それに私たち夫婦の9名であった。

5月28日(土)13時に岡豊苑に集合し、竹内達夫氏が運転する土電ハイヤーのジャンボタクシーに乗って13時15分に出発した。



下流の祖谷溪大橋から眺めたかずら橋



祖谷溪大橋から私たちを眺める高野いくよさんたち

2. かずら橋

最初の観光地は西祖谷にある「かずら橋」。この橋は、山口県岩国市の「錦帯橋」、山梨県大月町の「猿橋」と共に、日本三大奇橋と言われている。

橋長45m、幅員2m、川面からの高さ45m。シラクチカズラで造られたこの吊橋は、3年に1度、架け替えられている。見た目はかずらで造られた吊橋であるが、通行者の安全を確保するため、主ケーブルの芯にはワイヤロープが通され、強度が確保されている。

かずら橋に平行してその下流側に「祖谷溪大橋」と「新祖谷溪大橋」が架かっている。いずれも3径間連続方杖ラーメン橋である。



かずら橋の左岸主塔部。通行料は一人550円。



高野広茂会長は満 85 歳であるのに身が軽い

新祖谷溪大橋は橋長 52.1m、幅員 5m で平成元年(1989 年)に竣工している。歩道専用の祖谷溪大橋は、新祖谷溪大橋のすぐ上流に架かっており、かずら橋を眺める展望台の役割と、かずら橋をバックに集合写真をとるためのベストポジションになっている。施工時期は平成 20 年よりもっと後と思われるが不明である。

祖谷のかずら橋や 蜘蛛の巣のごとく
風も吹かんに ゆらゆらと
吹かんに吹かんに
風も 風も吹かんに ゆらゆらと

祖谷のかずら橋や ゆらゆらゆれど
ぬしと手をひきや こわくない
手をひきや手をひきや
ぬしと ぬしと手をひきや こわくない

祖谷のかずら橋や さまとなら渡る

落ちて死んでも もろともに
死んでも死んでも
落ちて 落ちて死んでも もろともに

このように「祖谷の粉ひき唄」で唄われているように、かずら橋はよく揺れる。床が丸太を編んで造られているため川面が見えて恐怖を感じる。渡るには少し勇気がいる。

「かずら橋を渡るのは怖いのでいや」という観光客も結構いる。高野いくよさん、宮地満理子さん、前田修身さんは祖谷溪大橋からのみ見物であった。

3. かずら橋夢舞台

かずら橋の近くに巨大駐車場、イベント広場、物産館、食堂などを備えた巨大観光施設がある。

「道の駅にしいや・かずら橋夢舞台」である。

平成 18 年(2006 年)に総事業費 43 億円を掛けて建設された。基礎杭には直径 60cm の鋼管杭が使用されている。高知丸高がダウンザホール工法で施工したと、高野広茂会長から教えていただいた。

かずら橋の横に架かっている祖谷溪大橋から眺めると、まさに巨大な舞台である。

物産館の中には祖谷地方で昔使われていた日常道具も展示されていた。



かずら橋夢舞台の物産館



高知丸高が施工した基礎杭



物産館の中に展示されている昔の日常道具

物産館には5月28日と29日の2回立ち寄った。三好市内のホテル宿泊者に対して「GoTo 秘境三好市トラベルクーポン」が配布される制度があり、各自2,000円の商品券をもらっていた。それで土産物を買うためである。

4. 祖谷溪温泉ホテル秘境の湯

日本三大秘湯と言われる祖谷温泉の「ホテル秘境の湯」に泊まる。

この温泉は、平成元年のふるさと創生事業を活用し、総事業費8,500万円を掛けて1,035m掘削し、平成9年に完成したものである。

三好市の施設であるが、平成25年からは株式会社ウエルネスサプライが指定管理者となっている。

この温泉は、薪を燃料にした4基のボイラーで湯を沸かしている。泉質はPH9.1のアルカリ性単純硫黄である。大浴場、よもぎの湯、屋根なしの露天風呂がある。

露天風呂に浸かっていると、ヒヨドリなどの野鳥の声が聞こえ、林の中を飛び回る蝶々の姿が見え、心が癒された。



ホテル本館の正面



祖谷秘境の湯



温泉の湯は、4基のボイラーで沸かしている



ボイラーの煙突か出る煙



ホテルから眺めた祖谷ロマン橋



茅葺の古民家「木村家」



夕会食の料理



以前は古民家喫茶店として営業していた

5. 重要文化財木村家住宅

「ホテル秘境の湯」から徳島県道 32 号線を通って京柱峠に向かう途中、国指定重要文化財木村家住宅の看板を見つけた。

元禄 12 年に建てられた祖谷地方最古の建築物。寄棟造、茅葺、三間取り形式の民家。「古民家喫茶きむら」として営業していたようであるが、コロナの影響でずっと休業中であった。

庭には直径が 2m は超えていると思われる銀杏の巨木があった。

6. 定福寺不動明王三尊

国道 439 号から林道西熊別府線・林道大柝線を通って物部に抜ける予定であったが、生憎災害復旧工事のため通行止めになっていた。

京柱峠を經由し国道 32 号に出るルートに予定を変更し、豊永に向かって国道 439 号を走っている途中、福寿草で有名な定福寺に立ち寄る。真言宗智山派のお寺で、来年(2023 年)開創 1,300 年を迎える。

約 1,200 年前に、行基が一刀三礼(ひと彫り

毎に三度礼拝すること)して造ったとされる不動明王、制多迦童子(せいたかどうじ)、矜羯羅童子(こんがらどうじ)の不動明王三尊が、駿州久能寺の護摩堂の本尊として安置されていた。その後、久能寺の焼失、第二次世界大戦による東京空襲などの災禍があったが、それらを逃れ長年個人の家に安置されてきた。

その不動明王三尊が不思議なご縁に導かれて、つい最近、定福寺に安置されるようになった。現在、定福寺の本堂に仮安置されている。

現在、檀信徒から寄附金 1.5 億円を募り、定福寺講堂を新築する計画が進められており、不動明王三尊はそこに安置されることになっている。

檀家の人達にもまだお披露目されていない不動明王三尊を間近で拝観させていただき幸運に恵まれた。



1300年の歴史がある定福寺の本堂



講堂建築費用 1.5 億円の寄附を募る看板



定福寺の本堂に仮安置されている不動明王三尊。定福寺住職の釣井龍秀和尚からいただいた資料の写真より

7. 定福寺豊永郷民族資料館

定福寺の境内に豊永郷民族資料館がある。豊永郷の人々が昭和 30 年代から 40 年代に使用されていた山村生活用民具 12,000 点が収蔵されている。その内の 2,596 点は重要有形民族文化財の指定を受けている。

私の幼少時代、農作業や日常生活で使われていた懐かしい道具が展示されていた。その多さに圧倒されたが、98%が豊永地区で集められたということにも驚いた。

定福寺住職であり豊永郷民俗資料館の主任学芸員でもある釣井龍秀氏が、資料館建設の目的や今後の展開について熱く語ってくれた。

友人の小笠原敏雄さんの母上の実家が定福寺である。そのような縁があり、奥さんの小笠原美和さんから民族資料館の見学を勧められていた。入館料は一人 500 円である。



釘を1本も使わない伝統技術で建築された民族資料館



民俗資料館主任学芸員の釣井龍秀氏が説明してくれた



足で踏んで藁縄を編む「縄編み機」



木こりが使用していたノコギリ



アイロンとコテ



脱穀した粃(もみ)からゴミを取り除くための唐箕(とうみ)



行火(あんか)



耕運機が発明される前の田耕(たすき)



湯たんぼ

8. バリ料理レストラン・ジャスミン

事前に予約を入れていた土佐山田町の古民家レストランで、本場のインドネシア料理を堪能した。



レストラン・ジャスミンの入り口



インドネシアの料理

9. あとがき

今回の旅行では何から何まで高野広茂・いくよご夫妻のお世話になった。同行した皆様は明るくて愉快的な人ばかりであった。思い出に残る楽しい時間を過ごさせていただいた。皆様に心より感謝申し上げます。

(令和4年5月30日)



ホテル秘境の湯での夕会食。5時45分から営業時間の9時まで歓談を楽しんだ